

クレス出版

No.KD0438
2022年11月

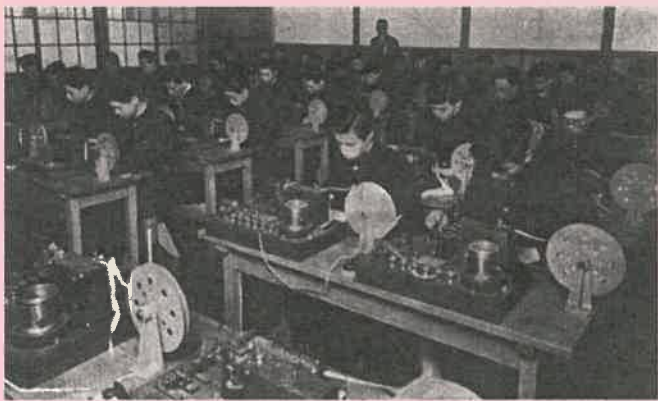
文献資料集成

<学校から仕事への移行>の形成 日本の制度・実践・メディア

木村元 監修・解題 丸山剛史 監修・解題

こんにち、学校から仕事への移行が新しい段階にある。学校を出て仕事に就くというこれまで当たり前のように学校と企業社会がつながっていた仕組みが大きく動揺している。本資料は、学校と社会との関係の転換点にあって改めてこれまでの時代を見直すための材料を提供するものである。(導入解説・木村元より)

内容紹介



▲第1巻『産業教育70年史』より

第3巻『新制高等学校教科課程の基礎』より

第一章 新制高等学校教科課程の基礎
第一節 一般原理

新制高等学校は既に普及し、漸く教育課程が完成されたが、旧制高等学校の教育課程とを比較し、新しい教育課程の編成を論じなければならぬ。この目的は、校長、教頭、教育委員会委員、その教育課程を執行する者であるが、これに対する理解を得ることは、必要に供しようとするにある。

われわれは、ここで、新制高等学校の教育課程を執行する者である校長、教頭、教育委員会委員、その教育課程を執行する者であるが、これに対する理解を得ることは、必要に供しようとするにある。

この目的は、校長、教頭、教育委員会委員、その教育課程を執行する者であるが、これに対する理解を得ることは、必要に供しようとするにある。

新制中學校の性格

新制度樹立の経過

六、三、三、四制を、毎年足りない準備で実施せしめるといふことは、東西の歴史にかつて類を見ることが出来ない破天荒な教育改革である。しかもその規模が大きく徹底していること、短日月に決行されたことなど、考えてみれば、おどろくより外はない。然しとも見ざる大改革である。

これは、いまの日本がかかっている運命的な歴史的必然であるとともに、日本再建のための最大の方途としてわれらがみずから先をびとも覚悟もある。まわり遠くのように見ればとも知れないが、あまりにも準備不十分であるかも知れないが、いわゆる民主的な制度をつくらうとして國民のひとりひとりから生かされるためには、これ以外には道はない。教育その制度や内容を根本から変えて加して、六、三、三、四制を布きその手はじめとして新制中學校制度を完成し、その上に第七年を準備としたことは、日本が真正に平和的な文化國家として再生する最大の要件の實現に手をつけた。



◀第4巻『新制中学教育指針』より

SalesID	ISBN	シリーズ名称	同時アクセス1 (本体価)	同時アクセス3 (本体価)
KS00000872	9784866701028	文献資料集成 〈学校から仕事への移行〉の形成 第I期全5巻セット(分売不可)	¥121,000	¥220,000

収録一覧

◆導入解説(木村 元)

第1巻 産業教育七十年史
産業教育七十年史 文部省(雇用問題研究会、1956年)

第2巻 産業教育七十年史(資料編)
産業教育七十年史(資料編) 文部省(雇用問題研究会、1956年)

◆第1巻、第2巻〔解題〕丸山剛史

第3巻 戦時下・戦後改革期の進路指導
新学制下の進学指導 文部省国民教育局監修文政研究会編(新紀元社、1944年)
新制高等学校実施の手引 文部省学校教育局編(教育問題調査所、1948年 国立教育政策研究所教育図書館所蔵)
新制高等学校教科課程の解説 文部省学校教育局編(教育問題調査所、1949年)
中学校高等学校職業指導の手引 文部省初等中等教育局(日本職業指導協会、1949年)

◆第3巻〔解題〕木村 元、丸山剛史

第4巻 新制中学校と職業指導
新制中学教育指針 文部省関係各課長合著(教新社、1947年)
小学校・中学校教師のための学習指導必携 一般編 初等教育研究協議会(日本教育用品協会、1947年)
小学校・中学校教師のための学習指導必携 各科編 初等教育研究協議会(日本教育用品協会、1947年)
学校で何を学ぶか—新教科の研究 勝田守一・石森延男・島田喜知治・木宮乾峰(新経営社、1948年)

◆第4巻〔解題〕木村 元、丸山剛史

第5巻 職業教育並びに職業指導委員会・中央産業教育審議会関係文書(附録 佐々木享・名古屋大学リポジトリ未収録資料)

職業教育並びに職業指導委員会／職業教育及び職業指導審議会関係文書

大田周夫旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書館所蔵)

森戸辰男関係文書(広島大学文書館所蔵)

戦後教育資料(国立教育政策研究所教育図書館所蔵)

国立公文書館所蔵文書

辻田力旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書館所蔵)

厚沢留次郎文書(国立教育政策研究所教育図書館所蔵)

中央産業教育審議会中学校産業教育専門部会議事録及び関係文書

高校職業学科の教育学 佐々木享(私家版、1996年)

技術・職業教育教員養成史研究の現状と課題(研究ノート) 佐々木享(2002年)

◆第5巻〔解題〕丸山剛史

刊行の言葉

文献資料集成〈学校から仕事への移行〉の形成—日本の制度・実践・メディア

木村 元(一橋大学特任教授)

現代は、学校から仕事への移行関係が過渡段階にあり、模索の時期にあるといえるのではないかな。

学校を出て仕事に就くという、これまで当たり前のように学校と企業社会がつながっていた時代が大きく動揺している。これからの学校と仕事との関係を考える上でも、あらためて両者の関係がどのように作り上げられてきたかを遡りその性格を押さえることで、現在の学校から仕事への移行の歴史的な位置を確認することが求められている。

日本における学校から社会への移行関係は、両大戦間を経て戦後本格的に拡大され、一九七〇年代初頭には確立する日本型企業社会においてつくりあげられる。そのなかで学校は、一方的に社会の要求に対応するだけでなく、独自に対応の論理をつくりあげていったことによって、固有な接続関係が生み出されたといえよう。

本資料集成は、この間の学校の制度基盤や性格を押さえながら、日本の〈学校から仕事への移行〉の形成がどのようになされていたのかを探ろうとするものである。